

「コミュニティ・プラットフォーム形成地域のモデル的な取組創出」事業実施報告

【事業名】 伊佐市コミュ協サステナブルアクションプロジェクト

実施主体

【市町村】 伊佐市地域振興課

【団 体】 特定非営利活動法人しかごしま



背 景

伊佐市合併後に15校区コミュニティ協議会が設立され、長年それぞれの地域性を活かした様々な取組が行われ、多くの地域生活者が参加してきた。しかしながら、「超少子高齢化」「人口減少」などの社会的影響を受け、他の市町村のコミプラ同様に担い手不足による役員の固定化など、現状の活動の継続が危ぶまれる状況が発生している。

さらに今後、公的サービスの減少が見込まれるなか、その担い手の一端としてコミュニティ協議会への期待が高まるが、現在の体制においては、柔軟な対応が困難になりつつある。

地域課題

校区コミュニティ協議会等の地域活動における

- 担い手不足、役員の固定化
- 話し合いの行き詰まり
- 固定的性別役割分担意識の定着
- 多様性への理解不足

事業のねらい

広く伊佐市民に対し、「超少子高齢化」「人口減少」の現状と今後の社会変化、それに伴う地域課題の解決に向けて、多様な人々が参加・参画しやすいコミュニティづくりへの理解を深める。

また現状のコミュニティ活動について、課題の抽出や見直し、整理、今後に向けた取り組みの検討などを行い、地域のニーズに対応した活動が継続的に行われることを目的とする。

事業概要

・講演会の開催①

テーマ/今後の社会的変化を知り、地域のあり方を考える
～地方創生とコミュニティの役割～

講師/四日市大学 学長 岩崎 恭典 先生

・講演会の開催②

テーマ/地域コミュニティでのジェンダー平等とダイバーシティの実現について考える
～誰もが出番と居場所のある地域コミュニティづくり～

講師/オフィスピュア たもつゆかり 先生

・ワークショップの実施

テーマ/多様性を学び、対話を深めるワークショップ

～誰もが尊重され、がまんしない、がまんさせない、対話が地域を豊かにする～

講師/オフィスピュア 高崎 恵 先生

・グループワークの実施（7回）

内 容/「地域の自慢」、「地域の課題」、「地域の10年後に必要なこと、もの」、「10年後も続けていくために今後取り組むべきこと、変えていくべきこと、アイデアなど」、「課題の重要度、優先度マトリクス作成」、「課題整理票作成」、「他校区の活動と課題を共有、課題解決にむけた提案」、「【今後の社会変化に対応できる地域】・【一人一人が大切にされる地域】・【対話が尊重される地域】に向けた目的達成のための6W2Hシートの整理と確認」、「グループワークの気づき」

ファシリテーター/伊佐市地域総務課 課長 春園 四郎 さん

サポーター /伊佐市地域振興課・地域コーディネーター 西 和博 さん

地域おこし協力隊 坂元 紫乃 さん

成 果

各講演会及びワークショップを実施したことで、地域課題解決のために誰もが参加しやすい地域づくりを行うことへの理解や学びを深めた。

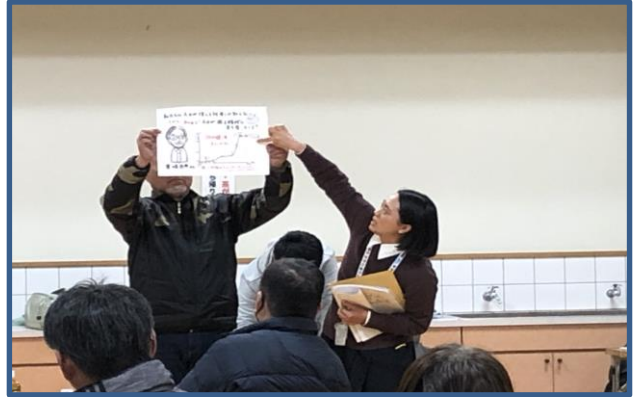
その上でグループワークを実施し、校区コミュニティ協議会等の地域活動において、

- 協働・伴走支援を行う上で各関係機関が目的を共有し、それぞれの専門性を十分に活かすこと
- 地域コミュニティが主体となった地域課題の解決には、円滑な話し合い活動と、話し合い活動において抽出した課題に対する取組を始めることへ大変なエネルギーを必要とすることから、それらを支援すること

が重要であることがわかり、それらを踏まえて本事業において伊佐市役所職員、地域コーディネーター、地域おこし協力隊がしっかりとチームを組んで、話し合い活動をサポートし、今後の課題解決への取組を継続的にサポートする体制を整えることができた。

今後の取組

- 今回のグループワークでチームを組んだファシリテーター，地域コーディネーター，地域おこし協力隊で改めてチームを組み，今後も校区コミュニティ活動の支援を行っていく。
- 今回のグループワークで結論が出なかった校区コミュニティ協議会については，チームとともに伊佐市地域振興課もその後の経過を追い，声掛けを行う。
- 伊佐市コミュニティ連絡協議会理事会（会長会）において，本事業の概要等の説明を行い，今後他校区コミュニティ協議会でもグループワークなどができないか，働きかけを行う。



協働事業の感想

団体からの声

地域活動支援のあり方について、ひとつの結果を生んだと感じている。伊佐市、鹿児島県、NPOそれぞれが特性と専門性を活かし、互いに協働しながら校区コミュニティ協議会の限界を支援することで、校区コミュニティ協議会の地域課題解決への推進力につながった。

県担当課からの声

講演会，ワークショップ，グループワークと丁寧積み重ねることで，話し合い活動の重要性への理解が深まった。
また，市，NPO等が協働・伴走することで，地域づくりを行うための伴走支援のあり方等を探ることにもつながった。
今後も継続的に，各校区コミュニティ協議会の取組等のサポートを行い，地域課題の解決の一助となることを期待している。

市町村担当課からの声

今回の事業を受けて行政としても大変勉強になった。今後ほかの校区コミュニティの対応にも生かしていきたいと思う。

地域コミュニティからの声

このような機会がないと人口が減っていくことだけをただ嘆くだけなので…地域を再生するために、もっとやれることはないかと考えるいい機会がもらえたと思う。